

頑張ろう日本!

# depOn

live mag. from real INDIES

2011

07

TAKE FREE!!



TOTAL FAT / SuiseiNoboAz / musiquo musiqua /  
ザリガニ\$ / アザラシ / ハロー青空トレイン / レンゲフィールド /

MEETS JAM NINESPICES ERA FLAT WARP RIPS Match Vox



私の鳥肌メロディセンサーに引っかかってくるバンド「ゴッドモーニングアメリカ」いつも新曲を聴かせてもらう度に鳥肌センサーがバリバリ引っかかります。今回のミニアルバムはミニアルバムだからこそその内容たっぷりさが溢れ出でます。

Interview: Reona Komuta (kichijoji WARP)

[L→R] Ba/Cho:たなしん、Dr/Cho:ベギ、Vo/Gt:金廣 真悟、Gt/Cho:渡邊 幸一

■ 一転しているいるあって、新たに出る「ウォールペーパーミュージックじゃ踊りたくないぜ」……ウォールペーパーミュージックって何？

金廣: ジョンレノンが言った言葉です。朝食をとりながら、その後で流れているような音楽を批判した言葉なんです。俺が知ってたきっかけはU2のボノの言葉なんですけど……なんで自分が音楽をやっているのかっていう時に「神に立ち向かって行く音楽か、神に向かって行く音楽かどっちかだ」って言って。例えばラブアンドピースとかが流行っても、パンクが流行ってもそれがだんだんポップ化していく。それが結局ウォールペーパーミュージックみたいな感じで、抵抗とか愛とか本物のものが偽物になっていく。偽物になっていった音楽がポップミュージックとして流行って、それを批判する気持ちを込めて作った言葉が「ウォールペーパーミュージック」っていう。

一同: ハ〜〜〜〜。

■ 自分的にはさ、どの位置にあると思う？ ロック、ポップ……。

金廣: 正直言って、J-POPだと思いますね。

■ それはあえて？

金廣: あえてというか……まあ、あえてですね。でも、結局そういうのじゃ踊れねえっていうのは自分の中にあるから、そこを歌詞でやりたいなと思って。結局、そういうのって何にでも当てはまる事だから。たまたまサビでそういう歌詞が浮かんじやったんで、それでいいかなと。

■ 今回、とある理由でいろいろありましたけど……俺はこういう曲としてはすげ〜好きです(笑)。最近スギケン(ベギ)の影響もあって俺もFoo Fightersとか聴き直したりとかするから(笑)。あれはやっぱりカッコ良いね!

タナシ: カッコ良いよね! ビルボードランキング見てて、結構ヒップホップとか全然色が違う中さ、あれだけ本当ロックで生音でさ(笑)。洋楽と違って、生音とか今ほとんど無いじゃないですか。

■ そういえば、みんなどこら辺を通過してきた?

金廣: 俺は完全にプリティッシュです。

タナシ: 最近はCOPELANDにすごく影響受けてますね。ああいう切ないやつとかエモいやつとか好きですね。しみりする感じが好きなんだなあと思います。(ゴッドモーニングアメリカで)日本語やるときもミスチルの『シフクノオト』っていうアルバムの時で、そのアルバムを聴いてこういうじわつとするような日本語でやりたいなって思ったきっかけでもありますね。

渡邊: 俺はミスチルっすね。ミスチルを通して、今言ったCOPELANDだったりU2だったりCOLDPLAYだったり聴いてて……でも結局ミスチルばっか聴いてますね(笑)。

ベギ: 俺はFoo Fightersですね。

■ まあ、そうなってくるよね(笑)。

一同: (笑)

■ 「花」が良いよね! 俺は「花」はシングルカットしてほしいぐらい良い曲だなと思うね。

渡邊: それはメロディ的なの?

■ これは全体的に良いね! これは、とにかく何かに使われてほしいね。これは本当に思いますね!

タナシ: この記事を読んで、もしかしたら誰か奮起する人がいるかもしれないね。

■ いるかもしれない(笑)。それぐらいすげえ曲だと思うんだよね。

タナシ: 嬉しいですね。

■ このミニアルバムのコンセプトみたいなのはあった? 俺からみたら、ぶっちゃけ全曲捨てて曲が無いというか、全部表題曲になってもおかしくないぐらいつまってる感じがすごくするんだけど。

金廣: ミニアルバムなんで、そこは考えてはいるんですけど。全曲通してライブなんじゃないですかね。結局、ライブでどうするか、表現出来るか出来ないかっていうラインだと思うんですよ。さっき言ったポップミュージックとかJ-POPとか、そっちに傾ききれていない所っていうのが音源的にもライブのにも今流行りのデジタルとか作り込む感をやりにすぎない感じっていうか。まだ自分達がロックをしてると思ってから、ロックとポップの間ぐらいを今やってるっていう。結局、ライブ中心で考えてるっていう所

がアルバムコンセプトなんじゃないかになって。歌詞とかは作曲の時期もそれぞれだしいろいろあると思うんですけど。全体的に言うところのライヴの事しか考えてないですね。

### ■ ライヴと音源って自分達の中では分けてる？

渡邊:今は分けてないと思いますね。ライヴで出来るというか、ライヴでやってる所は想像出来るように作っているの。音源だから、ライヴだからというよりも、音源聴いてくれた人が単純にライヴに来て一緒に盛り上がるというか。ライヴで俺らも伝えて、お客さんも音源聴いてライヴ来て楽しくなれるというか。今はそういう所が一番強いんじゃないですかね。

■ じゃあ、ライヴと音源は今の所同じ観点というか。ライヴ感はしっかり残して、ライヴに繋げたいっていう所もあるのかな。

金廣:そうですね!ライヴに繋げたいですね。

### ■ タナシンはどう思うの？

タナシ:異口同音ですね!

一同:(笑)

### ■ ツアーは？

渡邊:8月20日からですね。

### ■ どれぐらい?

渡邊:8月20日に八王子RIPSでレコ発やって、全国16、7カ所まわって。10月10日が初のワンマンです!!

### ■ ワンマン!!

金廣:ワンマンやっちゃいます!!

渡邊:バンド10年やって初めてですね。

タナシ:本当そだね。まずフルアルバム出した事無いからね。

渡邊:本当に楽しみですよ。

### ■ これは楽しみだね。

金廣:挑戦してる感じはしますね。

■ あ!せっかくだからさ、今回裏表紙のTOTAL FATの話もしようよ(笑)。知ってる人も知らない人も昔からの…。

渡邊:そうですね。スプリットとも出しましたからね。21、22歳ぐらいの時。…もう7年かぁ〜!ハンパじゃないな、そう考えると(笑)。

### ■ 全然違った形だね。

渡邊:そうですね!表紙と裏表紙でやるっていうのは嬉しいですね。

タナシ:スプリットですよ。

■ そうだね、ある種ね(笑)。全然音楽性変わったけど、今でも仲良くしてんの?

タナシ:俺は一緒に住んでますからね!

■ そうなんだ?!面白いね(笑)。

タナシ:新作も聴かせてもらって「いいね!」って話したりしてます。

### ■ まだ交じり合う時ではない感じ?

タナシ:まだですね〜。

### ■ いつか交じり合う時はある?

タナシ:もちろん!あるんじゃないですかね。交じりたいと思ってます!一緒にやりたいです!まだその時ではないんでしょうね。流れがそうきてないんで。

### ■ いずれあるよな、そういう時が。

渡邊:7年の時を経て、depOnの表裏っていうのはやっぱり嬉しいですね。感慨深いというか。

タナシ:バンド続けてよかったと思いますよ。

一同:(爆笑)

### ■ そんなに?!(笑)

渡邊:正直、またこういう感じでやれるとは思ってなかったですからね。ライヴをしたわけじゃないですけど、当時はあんまりもう絡む事も無いのになって。でも今は何か一緒に出来たらいいなって思っているんですけど。それが今回、こういう形で1つの形になるっていうのは嬉しいですね。

タナシ:思い出のあるリンキですからね。

### ■ そうだね、若かり頃の…今でも八王子の街で。

タナシ:WARPでもね、58年祭りとかやりましたね(笑)。

一同:(笑)

金廣:なつかしいね〜(笑)。

### ■ やってたね(笑)。Mighty Duckとかね。

タナシ:DURGAとか。

金廣:AndMarkHerとか。

渡邊:あとRIDDLE。当時はラッドランカーか(笑)。

### ■ そう考えるとやってるね。グッドモーニングアメリカ!

タナシ:だからね…成功したいですね。本当に。TOTAL FATもしかりですけど、がんばってくれてるんで。個人的にすごく良い刺激になってますよ。

### ■ 今後の展望やら予定やらは?

渡邊:まあ、この作品を1人で多く届ける為に頑張ってるツアーまわって、ワンマンを成功させる!もう本当にそれだけです。それ以降はまだ考えていないというか。それが本当にバンドにとってすごく勝負になる事だと思うんで。本当にそれに集中したいです。

■ いや、でも…このアルバムは良いと思いますよ。僕は。本当に。

一同:ありがとうございます!

タナシ:メロディ番長お墨付きです!

一同:(笑)

タナシ:吉祥寺WARPの店長レオナさん(メロディ番長)のさびいぼセンサーにひっかかりました!

一同:(爆笑)

■ そうだね、それは間違いなく(笑)。まあ、今後も期待してますよ!!宜しく願います!!

一同:宜しく願います!!

渡邊:10月2日も吉祥寺INDEPENDENCE DAY決まったので!

## 2nd mini album

## 「ウォールパーミュージック

## じゃ踊りたくないぜ」

# 2011.07.20 RELEASE!!!



1. ウォールパーミュージック じゃ踊りたくないぜ
2. 光となつて
3. 境界を越えて
4. また会えるよね
5. 心臓抉って
6. 花
7. その手伸ばして

FIVER-013  
1800円(税込) / 全7曲収録

## LIVE SCHEDULE

07/09(土) 小田原産羅人  
07/17(日) 八戸ROXX  
07/18(月) 秋田LIVE SPOT 2000  
07/23(土) 渋谷CYCLON  
07/24(日) FREEDOM NAGOYA'2011  
07/27(水) 渋谷O-Crest  
07/30(土) 下北沢ERA

## TOUR SCHEDULE

08/20(土) 八王子RIPS レコ発  
08/21(日) 水戸ライトハウス  
08/22(月) 仙台JUNK BOX  
08/26(金) 神戸太陽と虎  
08/27(土) 大分TOPS  
08/28(日) 松山SALON KITTY  
08/31(水) 熊谷BLUE FOREST  
09/02(金) 横浜BAYSIS  
09/03(土) 北浦和KYARA  
09/06(火) 千葉ルック  
09/10(土) 名古屋TREASURE05X 2011  
09/11(日) 大阪2nd Line  
09/23(金) 高崎FLEEZE  
09/24(土) 新潟GOLDENPIGS  
09/25(日) 宇都宮 VJ-2  
09/30(金) 名古屋APOLLO THEATER  
10/02(日) 吉祥寺WARP -INDEPENDENCE DAY-  
10/18(土) 代官山UNIT ファイナル(ワンマン)

「ロックの初期衝動」それは言葉で表すのは困難でも、その真意を伝える事は自分には到底無理な事だと思っている。  
言葉では説明のつかないその魅力たるや、体感する事でしか味わえないからだ。そしてこの表現自体、個人的にはあまり好きじゃない。  
しかし、その俺が誇る最高の賞辞として捉えるこの言葉を、  
SeiseiNoboAz(スイセイノボアズ)の2nd full album  
[THE(OVERUSED)END OF THE WORLD and I MISS YOU MUH-FUH]  
に贈りたい。このカッコ良さは、やっぱり言葉じゃ説明出来ません。

interview:Yohei Miyazaki(下北沢イメジャ/新宿NINE SPICES)



[L→R] 溝沢匠良(ba) / 櫻井範夫(dr) / 石原正晴(vo/gt)

■セルフプロデュースとなった今作品ですが、単純に僕が聴かせてもらって…すごく生々しさだったり、ストレートな部分が増えて、すごく良い具合前に出てる作品だなあというふうに感じました。

石原:僕がもともと何で向井さん(向井秀徳)に1stのプロデュースをお願いしたかっていうと、1つにはミュージシャンで自分でDIYで録音して基本的に出来ちゃうっていう、その感じが好きっていうのもあったんですけど、今回はミュージシャンで自分でお金を払って…皆さんそうだと思うんですけど、ZOOMのMTTRでデモテープとか録って当時ですけど、どうしても出来ない事ってすごくいっぱいあって。当時、それがすごく辛かったんですけど、結構、ZOOM関係の人はかなり画期的な事をやってたな〜と、当時自分では思ってたんですけど、ただ、やば〜…3ヶ月くらいですと、全然画期的じゃないんですけど(笑)。基本的に自分では自分でパソコンしたものを作らしている気持ちがある。それで曲もすごくストレートというよりも、そういう歌とか曲とかが出来てから、自分なりに思ってるって…で、やりましたね。

■ SuisseNoboアツていうバンドのイメージがスリリングで緻密な演奏って感じだったんですけど、…この前(5/15 @ERA)久々にライブ観て、すごく骨太な、「ドカ〜といっせ!」みたいな部分を感じたのね。

石原:もともとシンプルなもの好きなんですけど、基本的に3人でやってく上〜…例えば3コードの、メロディーがあって音がでているっていうような曲が聴かなくていいかと思うんですけど、最初3人しかいないって、それが大事をやるっていう発想で、スリリングで複雑な事をやらかさってっていうのはなかったんですけど、3人で1つ(バキの音をお互いに)「せ〜」で、やらかあいうふうになってたっていうのもあるんですけど(笑)。聞き直して言っちゃったそれまでなんですけど、別に大丈夫かなって気がしたっていうのが、僕が高校生くらいに好きなバンドっていうのは、それこそこの前(5/15 @era)一緒にやらせてもらったBEYONDSとか、bloodthirsty butchersとか、それ以外にいるんだってのが好きなんですけど、そういうものをちゃんと聴きたくないって…。聴きたくないっていうか、人が見て聴くほく感じるかどうかっていう、自分が後者のためにどうかっていうか。全然後者的にならなくなったっていうのが心境の変化かなって感じしますね。

■なるほどね〜

石原:もともと僕はそういう事をやるに、自分の中で後者的な感じを自分でやると、人に良いだと思われた方がいいかなとか(笑)。そういう後者的な感じがなくなったっていう感じですかね。単純に嬉しく演奏する事とか、別に良いんじゃないかな〜かなさ。何も恥ずかしくない。

■じゃあバンドの体制とかいう、その中でやっても全然問題無いというようにアツミングだったという?

石原:そうですね。1st出して、その後ずっとツアーまわったり

とかライブやったりとか曲作ったりして行く中で、別にもう何やっててもいいっていうか、なんでも出来るわけじゃないから、出来る事は限られているから、別に何やるうとしてもないんじゃないかなって。それで誰も怒らないだからやりたいう事やうって(笑)。ミックスとか録りとかもそうですね。

■変わるってと変わってわけでもなく、自然にそういうものが出来上がっていったっていう?

櫻井:そうですね。特に意識して今回の曲で作っていたわけじゃないんですけど、出来上がってみたらこんな感じになったっていう。曲はそうだと思うんですけど、1枚目と2枚目を聴き比べては良い感じに流れもあると思うんですけど、音に関してはかなり思い切ったんじゃないかなって思います。今回、録ってくれた池内さんとウマが合って、言った事すぐわかってくれるってなかなかいいなっていうか。そういう感じで進んでいくのが、すごくやりやすかったんですけど、これだったらもうというんじゃないかな〜みたいな感じもあるんですけど、スリリング自体すごく楽しかったですね。

■すごくいろいろ試しながら、こう…マイクの位置とかこだわって録ってそうイメージがあるんだけど?

石原:そういう部分もありますね。ただ、試したりもするんですけど、あんまり吟味はしてないです。どっかで迷ったりしないっていうか、「や」か「やらないか」で迷わない感じ。AかBか迷うんだったら、とりあえず両方や。両方迷うんだったら、他のをやる。立ち止まらずに味味するっていう事じゃない。「A?B?」「A!」「A?B?」「B!」「A?B?」「わかんない!」「じゃあC!」っていう感じ(笑)。そういうふうにしてうと思って作業を進めたら、かなり…もちろんやり直したっていう部分もすごく沢山あったんですけど、全体の流れていうか、気持ちの入りか、入りかすごく加速してって楽しかったですね。部分部分っていうよりは、今回はそれは本当に気をつけて部分部分にならないようにしようよと、全体とかが…単純に印象が「来るか」「来ないか」。作ってる本人だからどうしても気になっちゃうんですけど、なるべく部分にこだわらないようにしようっていうのはありました。もちろん、こだわってっていう部分もすごく沢山あるんですけど、来るっていう部分を重視してきて、ほとんどマスタリングの必要なかったですね(笑)。

一同:(爆笑)

石原:音量がほとんど限界まできてたので(笑)。

■「来る」「来ない」というのは、やっぱりバラと聴いてメンバー全員が一致する部分?

石原:まあ、一致しない部分もありますけど、その時は「来る」か「来ない」(笑)。

櫻井:ライブに関しては結構スムーズにいったかもしれないですね。ライブは、もうこれだけ良いんじゃないのっていう1本テープが出来て、やうって感じだった。ミックスの所でちょっと迷った部分もありましたけど、そういう時はさっき言ったように「A?B?か?」「それとCか?」そういうふうに一気にガンガン作っていった感じですね。

石原:ジャッジをするのは早いですが、でも、行き詰まるスピードも早かったですね(笑)。行き詰まりに入るとか、あらゆる躊躇をやめようみたいな、ミックスとかテープとか、あんまり「これはちょっと〇〇じゃないんじゃない?」とか否定的な言い方、「もっと〇〇じゃない方がいい!」みたいな言い方っていうのは基本的にやめよう自分の中で決めてました。「This is〜」みたいなジャッジが多分、1番良い。

■なるほど。消去法じゃないかな。

石原:もちろん、限界はありますけど。そんな出来ない人達じゃないですから(笑)。なるべく自分ルールというか、レコーディング期間中はそういう感じでやりました。

■歌ってる内容とかも、すごく聞いてみたかったんですけど、あの感じてなかなかに味わえない世界観あるなって非常に思うんですけど、今の無い俺にはなかなか難しかったけれど(笑)。でも明らかに言える事って、何かを想像させる言葉っていうのがすごく盛り込まれているっていうふうには思ってたんですけど、その辺はどんな事に込めてるんですか?

石原:基本的に自分の日々のメモみたいなものなんですけど(笑)。なので、あんまり一貫してないですね。「だから〇〇だぜ!」みたいなものも無い。基本的に自分の普段の事なので、そもそも人に対して言うような事でもないかもしれないんですけど(笑)。ただ、言葉として意味不明でも良いと思ってるんですね。音楽があって音と声っていうものが入ってるわけですね。もう、限りなく何言ってるか分からない所があると思うんですけど、でも、音として言葉の断片みたいなものがバツと意味が分かる瞬間とかあった時に、その言葉1つだけ見て分析するの方が良いかなって思ってますね。歌詞カードを見て分かるものも、文章として分かるものもあっていうより、音がグーンってなった時に分中で記号とかいうか…何かをバツと出てきて、その人がなんとなくトラウマみたいなものを思い出す方が良いかな(笑)。

■それって、聴く人に対しての作り手としての希望というか、願いたいみたいなのだと思うんですけど、…そこをどうやって作りたいですか?

石原:そこを狙って作れないからこうなったんですけど、っていうのも、要は交換出来るものっていう前提のもとに詞を書きたくったんですけど、多くの人は交換出来るものを書くと思うんですけど、共感を得るために、でも、それをやりたくなかったんですけど。そういうふうには思っていないのは人の性だと思ってるんですけど、車にひかれてめちゃくちゃ痛いのと、その痛みをわかっていうのは嘘だと思ってるよ。一同:(笑)

石原:でも、もしかしたら逆に自分のその痛みのかげが、の痛みをなにかもしいないですね。だから思いきりパーソナルな事をパーソナルなやり方で歌った方が「来る」言葉になるんじゃないかなって思うのもあってます。

■その哲学的な部分っていうのはメンバーの中でも共通



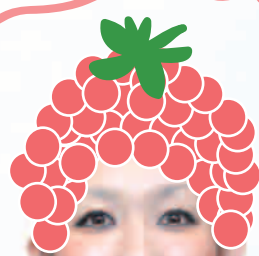
2ピースのニューウェーブロックバンド、ザリガニ\$が遂に全国流通の音源をリリース！  
 ザリガニ\$が選に全国流通の音源をリリース！  
 熱烈だけど、度々耳から離れなくなるよ！って  
 何度も聞いて、度々耳から離れなくなるよ！って  
 彼女達は、僕も何度も聞いて、度々耳から離れなくなるよ！って  
 これから彼女達の音が全国を駆け巡って行くのが楽しみです。  
 (新宿JAM 内藤重人)  
 text&edit:内藤重人 / design:高橋紀惠



# ザリガニ\$

みずき (suminagasa)

えり (vocal&boss)



ザリガニ\$ official web site → <http://www.zariganidollar.com/>

- 内藤重人(以下:■)じゃあ、始めようか。さっき聞いたんだけど、妹がギャルなんですよ？
- えり: え！
- みずき: なんて知ってるんですか？
- 有名なから。
- みずき: 石塚さん情報ですか？
- いや、沼田君 (JAM STAFF) 情報。どうなの妹がギャルって。
- えり: 妹は、最近介護ヘルパーの資格を取って介護士で就職しました。
- じゃあ、もうギャルじゃないんだ！
- えり: いや。ギャルのまま。
- みずき: ギャルの介護士! (笑)
- なるほどね。改めて、depOn初登場って事でザリガニ\$の事を知らない人も多いと思うんで、バンドの事を簡単に教えてくれたら嬉しいんだけど。
- えり: 最初ギターがいて3人だったんですけど、割と前にギターが抜けて今の2人になりました。
- 結成はいつ？
- えり: ザリガニ\$って名前で結成したのは2001年です。私、2000年高校卒業だから。
- 結構長くやってるんだね。
- えり: そうですね。10年くらい。
- ギターが辞めたのはいつ頃？
- えり: 2003年か4年頃ですね。
- みずき: 7月ですね。
- 俺、覚えてるよ。眼鏡の男の人だよな。
- みずき: あ！その方、1人目です。
- えり: 実は、もう1人女の子がいて、でも、その人、行方不明の人で、話し合いの結果辞めてもらったんですけど。
- そうなんだ。2ピースでベースとドラムって珍しいスタイルだね。それで、CD聞いて思ったんだけど、ドラム以外の音が3層くらいになってるじゃん。あれって全部エリちゃんが出してるのかな？
- えり: あ、でも音源だけ鍵盤が入って、ライブは生音のみですね。ライブで

- は音に関してアンプを3台使って、ワーミーとオクターバーファズを音を出してる感じですね。
- サウンドの構造という曲の構築の基本形ってあるんですか？
- えり: どうしても1人で音を出してるから、音がユニソッチャうんです。音源はベースはベースラインで弾いてるんですけど、ライブは殆どコード弾きで、ほぼパワーコードで弾いてます。
- あ、なるほど！それで音域によって掛かってるエフェクターが違うから、いろんな音が出るんだ？
- えり: そうですね。
- じゃあ、ベースをジャラーンってやってるんだね？
- えり: そうです。だからこミュートのせいでも減ってます(手の甲を指す)。最近逆に音を少な増やさなくていいんじゃないかって言われたりしたら、ベースだけの所を少し増やしたりとか今回はしますね。
- 歌のメロディーの音階がそんなに触れ幅がないと思うんだけど。
- えり: うん。確かに少ないですね。
- それはやっぱり昔のオルタナティブのバンドが好きなのかな？ソニックユースとか。
- えり: あ〜初めて言われました。私は割と昔のパンクポップの出身なんです。
- パンクポップって言うのは？
- えり: ラ〜ん、例えばラモーンズとか、あ、でもかといってラモーンズをめちゃめちゃ聞いたって訳じゃないけど。JITTERIN' JINNに似てるとか、少年ナイフに似てるとか言われる事はよくありますけど、あんまり自分ではそういう気がしませんけど。
- 俺はもろにソニックユースの影響受けてるなあって思ったけど。あんまり土台のコードは変わらないで上物の音がだんだんと変わっていくところとか。例えば2曲目とか。
- えり: ああ確かに、でも2曲目はモ〜サムトーンペンダーを意識したんです。面白いから。
- みずき: ふふふ。2人でCD聞いて、こんな感じで作りたいなって話して。
- 早くオルタナティブな音が鳴ってるように思うよ。日本語だし、歌詞の内容も日本人の感性に響く言葉遊びの感覚だったりするのがあるのが面白いと思う。

**Disk Information**  
 2011.7.6 on sale!!



¥1575 (tax in)

## AVOCADO

1. ポリシー 2. Hello
3. 未来ファストレーション 4. AvoGaDo
5. めんげ 6. ロリータ sensation
7. 脳内旅行 8. 大阪弁に憧れて
9. S. E. (Kenta Suzuki)

XOJR-1077/ジャケットデザイン D[ai:]

えり:まあ確かにそうですね。凄くメロウな流れのある曲も作ってみるんですけど、作ってる段階でどちらかばくなくいよねって事にしちゃうんです。

■そのうちらっばいって言うのはどういう所だろう?

えり:基本シンプルでコード数も余り多くない方向に持って行きたい流れは確かにあるんです。拍数とか拍子とかで変化させていくという。変拍子が好きなんです。だからやっぱりアンダーグラウンドになりすぎると聞く側との繋がりがいまいち浅くなっちゃうと思うので、歌のポップさを混ぜて作ってます。それに最近フリースタイルのラッパーに憧れを抱いてる。元々私は隠れヒップホッパーなんですけど。

みずぎ:結構今回のアルバムヒップホップな感じになってるんです(笑)。

■それが作品のコンセプトなのか。

えり:そうですね。リリックって言うのかな。リズム重視で。歌詞もこういう事があって、これを伝えたいと言うよりは言葉の面白さだったり、リズムメインです。

■アルバム聞いて俺が思った印象が1曲目がアルバム全体のイントロになってて、他の曲がそれぞれの色分けてバンドのカラーを描いてるっていうか。最後の曲がインストだったのが謎だけど。

みずぎ:最後は友達が作ってくれたんです。(笑)

えり:謎に楽しめて行く感じ。今後を楽しみたいという事です。

■2ピースなの苦労ってありますか?

みずぎ:意外に自由です。歌詞の邪魔にならな部分は言ってくれるからやりやすい曲があります。だから2ピースや4人1人にはやはりよって進めちゃいます。

■なるほど。ところで、えりちゃんは実家が栄州らしいですね。

えり:よく知ってますね。

■収穫の時期になると実家に戻らないといけならしいね。

えり:はい。お茶摘み休暇を取って実家に帰ります。帰ると勘当するって言われますけど。

■「大阪弁に憧れて」って曲なんだけどさ。えりちゃん静岡県民でしょ?東京郡民じゃないじゃん。この曲の歌詞って不思議だね。

えり:東京って言うけれど、うちら東京人じゃないんです。私、静岡でみずぎは山梨だから。大阪もいって結局静岡とか山梨辺りがいいんじゃない?って思ってるけど東京には憧れを抱いてるっていうそういう歌ですね。

■言葉の感覚にユーモアがあるよね。ライブの時ってお客さんは歌詞聞き取れるのかな。

みずぎ:ライブだとやっぱり難しいらしいです。

えり:意識しちゃうけど話すようにしてるんですけど、テンポが早いので、うにやうにやっちゃってしまいますよね。

■つしまみれとかと対バンしてると思うんだけど、音楽のユーモア感がちょっと似てるよね。

えり:そうですね。つしまみれが出て来た当時はよく似てるって言われましたね。

■彼女たちもももも1つの曲の絵を明確に持たせるけど、ザリガニは曲が集まって全体で想像力を膨らませるっていうか。そういう違いはあると思うんだけど。

えり:まさにそうですね。扱って受け取る。後は受け取る側の自由に思ってもらいたいなというのはありますね。

■歌詞は2人で考えるの?

えり:や、私が独断と偏見で考えます。たかが音楽、されど音楽というか。基本はやっぱり音楽って娯楽だと思ってるんですけど、娯楽ってやっぱりないダメだと思ってる。地震の時も本とかテレビとかないと参っちゃうって聞いて、娯楽って人間にとって必要だと思うし、音楽は人間の最大の娯楽だと思ってる。それで、暗い音楽とか悲しい内容だったっていうのは私たちが担わなくていいかなって言うのがあって、基本は楽しんでもらえるものを作っていたらいいなって思ってます。

みずぎ:ライブ中も楽しんでる?って感じでやりますし。

えり:大体、お客さん呆然としてる時が多いんですけどね。

■まあ、ピーもね。ゆっぴりゆっぴりって感じだね。

えり:JAMのってもらえる事が多いけど、昨日もライブだったんですけどお客さんはバカになってる感じ。ちょっとOL系のお客さんが多いバンドと一緒にやると…本当に。もう。

■まだ音が浸透してないからかな。音が浸透したら変わる事も山梨あると思う。きっと変わっていくよ。流通音源はこれが初めなの?

えり:初めてなんです。8年間自主でせっせこやって、やっと流通。売れるのかな?

今作はうちらの中では良いものを詰め込んで作ったんですけど。

■あ、収録されてる曲は今回の為に書き下した曲じゃないんだね?

えり:そうですね。今回の為に書いて曲もあるんですけど、昔からやってた曲も入れて。今回はジャケットもDってうい曲にもお願ひして。知ってます?

■ごめん、知らない。

えり:雑誌のジッパーとかでコラボをやったり古い挿絵とかをやったり人で私が高枚位の時から良くも思ってた。絵本とかも書いてるんですけど、今回、本人に直接連絡したらOKしてくれて、ご本人にも会えたり、仕事の出来も素敵だったし。CDの売れ合い今、モノの価値というか、CDというものに価値を持って買ってもらいたいなと思って。

■なるほど。インタビューの言葉をまとめるのうまいね。もしや大卒?

えり:やってないです。音楽の学校で退学です。

■妹はギャルらしい(笑)。今回のCDにも自分でコメントをつけるのうら、どういうコメントをつけるの?ちなみにCDタイトルは、なんでアポカドなの?

えり:CDの曲の中でT+AvoGadoっていう曲があるんですけど、私はアポカドが嫌いで、ハンバーグ屋さんとアポカドアポカドアポカドを初めて食べた時に、ぬるぬるとした感じが嫌過ぎた。私が食べれないアポカドを君が食べるという曲が入ってるんですけど、アルバムタイトルのことは現実と非現実の合同を行って欲しいという意味も含めて。

■あ、確かに曲の雰囲気は確かにそういう雰囲気をかもしだしてるよね。

えり:私たちが今まで凄くファンタジックな童話みたいな感じの曲が多かったんですけど、今回もうちょっと現実を見てみようという所と、そうならきれない、つまり大にねならないみたいな感じと現実と妄想の狭間を行く感じですね。

■コッ発後後ライブがあってツアーもあるみたいだけど、普段はあんまり都内以外でライブしないの?

えり:そうですね。CDを出したら関西とかは行くんですけど、横浜ですら、まだライブした事なくて。

■フアンマンもうまくいいね。

みずぎ:フアンマンですね。JAMで!!!友達100人連れてこない!

えり:友達ってどんな人になりますか。みずぎは友達多い方ですよ?みずぎ:友達少なくなつたね。私も。

■みんなで連合とか作れればいいんだよね。アンダー30世代です。

えり:同期のバンドもどんどんいなくなってるからならぬ。思い当たります?

■全然いいよ。みんな頑張ってる。

えり:私たちが頑張ります。いつか素っ気なかったけど、フアンマンに向けて改めて友達作るうかなって思ってる!

■なるほどね。じゃあ最後にザリガニの夢を語って!

みずぎ:めっちゃ近い所だと海外に早く行きたい!

えり:そうだね。海外で売れて逆輸入みたいな。やっぱり裕福でなくていいんで音楽を生計を立てたいですね。

■お父さんはなんて言うてる?

えり:お父さんはあんまり言わないんですけど、おばあちゃんが音楽やるのは25まで言ってたのに5年も過ぎた!って言って、しかもやってる事がアンダーグラウンドでお父さんとか理解出来ないし…

■やっぱりそこだね。

えり:お父さんとかが成功したねって思うのミュージックステーションとかに出たらかな。テレビに出ようかな。テレビ東京じゃなくて。

■みずぎちゃんは?

みずぎ:何も言ってこないですよ。応援してくれてます。

■いいなあ。どこまで行けるか分からないけど、俺は良いような気がするよ。多分ライブで見て感じられなかった事がCDに入ってると思うんだ。

えり:普段と違うような事だったり、ふと想像するよう事だったりか、リズムとイものを伝って、詰め込まれてるんで。耳でよく聞いて欲しいですね。1回聞くとアッと思って、もう1回聞きたくなると思うんです。それで3回くらい聞いたら世界はザリガニワールドっていうか。スルメみたいな感じですね。スルメCDです。

みずぎ:中毒性のあるCDなので、自然と頭に残ってふとした時にメロディーを思い出さずと思っちゃう。メロディーを聞き込んで、次回のザリガニにも期待して欲しいです。

## Live Information

2011.7.8 ONEMAN LIVE!!

「AVOCADO」レコ発ツアー「キミガタベルアポカド」

- |                            |                   |
|----------------------------|-------------------|
| ■8/10長野JUNKBOX             | ■9/23広島並木JUNCTION |
| ■8/12新潟GOLDENPIG'S         | ■9/25姫路BETA       |
| ■8/13高崎FREEZ               | ■9/26梅田ジャングリヤ     |
| ■8/20三軒茶屋HEAVEN'S DOOR     | ■9/27天王寺FireLoop  |
| ■9/18沼津WAVE                | ■9/28兵庫太陽ビ虎       |
| ■9/20名古屋CLUB ROCK 'N' ROLL | ■9/30京都MOJO       |
| ■9/21岡山ペーランド               | ■10/26千葉LOOK      |
| ■9/22山口Live!iseSHUNAN      | ■11/1新代田FEVER     |

「ツアーファイナルイベント」

## 7.8(fri) at 新宿JAM

ザリガニ\$「AVOCADO」

レコ発ワンマンライブ

「地球のてっぺんで髪を乾かしたい」

ザリガニ\$

オープニングゲスト：N.E.T

open18:30/start19:00 adv ¥1800/day ¥2800





マ:そこに関しては。  
 ■アレンジとかは変えたりしないの?  
 マ:全然違いますね。  
 ■まあそうか。ギターも増えるから自然と変わるか。  
 マ:うん。そうです。  
 ■そうか。これもまた歌詞が各ガティブだね。  
 マ:そうですかね。〜なんか良くないですか?  
 ■いや、いいと思うよ。歌詞が暗くても、曲で聴いて楽しかったらオッケーみたいな。音楽って昔からそういいう物だと思うよ。  
 マ:歌詞曲がそうじゃないですか?  
 ■うん。やっぱり失恋の歌が多いしね。  
 マ:哀愁系じゃないですか。日本人の、。。。からしょうがないんじゃないですかね(笑)。  
 ■そうですね。日本人として普通に生きて出てくる言葉だもんね。  
 マ:そこをちゃんと、言葉にふれたくないっていうのはありますね。  
 ■うん。うん。  
 マ:かぶれてますか?  
 ■いや、どうだろ。でも「RESORT」とか使ってるしね(笑)。  
 マ:あ、でもおれ横文字使わないですよ。  
 ■あれ?でもここ(リアクションベイビー)の歌詞で「エイジ」とか言ってんじやない?  
 一岡: (笑)。  
 マ:カタカナ語くわいすね(笑)。  
 ■「アンラッキー」とかね。歌詞の中に突然英字が混じってくるような事はないと。  
 マ:そうですね。○的なことはしないですね(笑)。大好きですけど(笑)。  
 ■あ、好きなんだ?好きだけど、敢てB○的なことはしないと(笑)。  
 マ:できなかったですね。正確に言うと。英語わかんなくて(笑)。  
 ■で、最後の曲目「夜」とこの曲だけ毛色が違うよね?ゆくりだね。  
 マ:そうですね。  
 ■なんか録る時に、この曲だけは違う録りで、みたくのってあったのかな?  
 マ:最後に録るうって言ってたよね。  
 ■それは気持ちの面でもこれは最後なんだっていう感じを出す為か?  
 マ:そうですね。自然とそうなりました。  
 ■なるほどね。演奏面では、なんか他の曲と違ったりしたのかな?  
 マ:さっさいギタ君が言ったみたいに、全体的にもこの曲が一番うまくできたかな。  
 ■あ、それってみんなそうなんだ?  
 マ:そんな気はしますね。  
 イ:でもこの時みんな疲れが限界に来てましたね。録ってる時、平崎さん(エンジニア)寝てたよね?  
 マ:いや、寝てない寝てない。  
 モ:あれは、たぶん、考えてたんだよ!(うつむいて)こうなって。  
 ■(笑)。なるほど。じゃ、まあ今は録り物が終わったって段階だから、どんな気分?  
 マ:広まったらいいですね。  
 イ:ボーカルを聴いて欲しいですね。歌詞によって歌い方を考えてたりしたんで、そう思ったところを。  
 モ:なにちゃんとインタビューしてんだよー(笑)。  
 イ:なんで(笑)。いいだよ!これが一番言いたかったんだから。  
 マ:売りたいです!  
 モ:うん。買って欲しいです!  
 ■そうですね。これいくらだった?  
 イ:5曲で1000円です。  
 ■いるんなら聴いて欲しいよね。  
 イ:あ、このCDのジャケットか、ボスターのイラストとか全部を、ドラマのコタローくんの前巻のWAFoneさんという人が描いてく

れたんですけど、WAFoneさんの絵も一緒に広まっていったらいいなと思うので、ぜひ見て欲しいですね。あと、このプロダクトで「夜が終わって朝が来る」というのが付いてるんですよ。  
 ■おお、またそうやってポジティブ行ってる、みたいな?  
 イ:そうですね。明るい未来に向かって、いてい。  
 ■なるほど。やっぱり歌詞とかもそうやって、最終的には前向きに受け取って欲しいっていうのはあるのかな?  
 マ:でも、結局は聴く人の自由でいいですけどね。  
 イ:でも僕はあれですね。芽えない人に聴いて欲しいですね。  
 ■自分のような?(笑)  
 イ:自分のような。幼き頃の、暗黒時代の自分に聴かせたいです。  
 ■(爆笑)そんな情あったんだ!  
 イ:先輩にボコられた時に、これを聴いてれば、まだ前を向いていられたかもしれないです。  
 マ:おれが一番のファンなんです。  
 ■へえ。で、そんな奴にも聴いてもらいたいと。  
 イ:「おれもそうだったんだぜ」っていう。  
 ■おおー、ヒーローだね。  
 イ:あと教育実習に行った時に、おれのこの気持ち悪いって言った中3の女子に聴かせたいですね。  
 ■(爆笑)そんなことがあったのか!そりゃキツイね。  
 モ:思春期にこの曲聞いたらしょうがないよね。  
 イ:顔は関係ないだろ。しかもその後、スーパーでバイトしたらいつやら会ったんですよ。  
 ■まじぞ?  
 イ:しかもその時、おれ腕に「実習中」で書いたやつ巻いて、...  
 ■まだ実習...、みたいな?  
 一岡: (爆笑)  
 ■オモシロすぎだろ!で、いつかは聴かせてやりたい?  
 イ:そうですね。聴かせてやりたいですね。  
 ■とてもいい事だと思うよ、その気持ちも(笑)。じゃ夜ライブの話も聞こうか、ワンマン!来たねー。ワンマンは何回目?  
 マ:3回目です。  
 ■そっか、今回のやつは無料ワンマンだもんね。これはぜひ見に来て欲しいね!  
 マ:そうですね。もうガンガン眠つぶしに。  
 ■眠つぶし(笑)。まあ発売記念のお祭りだからね。  
 モ:新曲をやるうって思ってるんですね。  
 ■おおー。CD出したのに、更に新しいのをやっちゃおうっていう。  
 イ:このメンバーになって初めて作るんですよ。  
 ■おーそうか。それは楽しみだね。じゃあこのワンマンに向けて、意気込みを聞こうかな。  
 イ:ワンマンにもタイトルがついて、「3度目の正直」って言う。  
 ■前の2回はダメだったの?(笑)  
 マ:全部最高でした。  
 ■じゃなんで?  
 マ:もう一発かましてやろうと。もうこれしか見えてねえぞっていう感じでガッツリ行きたいですね。  
 ■お客さんいっぱい来て欲しいねー。タダだね。  
 マ:そうですね。いっぱい呼んで。depOnの力もあるし。  
 ■偉大な雑誌(笑)。業界1、2争する。GIS、P.LOVER、depOn、みたいな(笑)。  
 イ:ギターーギタ?は?(笑)  
 マ:(depOnがあるところにギターーなんかなえよ!  
 ■失礼だぞ!  
 ■そりゃそうだ(笑)。じゃ最後に一人ずつ、読者に向けてメッセージももらおうかな。  
 マ:ぜひワンマンに来て、CDを買って下さい!  
 イ:こたわり持って一生懸命作ったんで、多くの人に聴いて欲しいですね。そして、僕も明日が来なければいいと思ってた時期が



PHOTO: 2011.6.6  
 PHOTO: 2011.6.6  
 PHOTO: 2011.6.6

あったんですけど、そんな人たちに...  
 モ:こいつ重い(笑)。  
 イ:でも、この歌詞を見て、明日が来る希望を持って欲しいです!  
 ■そして、ワンマンに来て欲しいですね。  
 ソ:今回のCDを作るにあたって、初めにいるんなら協力してもらったので、その人たちに感謝したいと思います。  
 モ:今のアザラシっていうのが全て詰まってるアルバムだと思ってる、それを聴いて欲しいです!  
 ■じゃこのCDが7月31日ワンマンライブから発売ということ、読者の皆さんぜひよろしくお願ひします!アザラシ今日はどうもありがとうございました!  
 一岡:ありがとうございました!

## DISK INFORMATION

7.31 on sale  
 ¥1000 (tax in)

アザラシ 『産声』  
 1st mini ALBUM  
 2011.7.31(sun) on sale

1. 運命
2. アンラッキー
3. RESORT
4. リアクションベイビー
5. 夜



## LIVE INFORMATION

2011.7.31(sun)  
 at shinjuku JAM

ONEMAN LIVE

【お昼の公演】  
 レコ発ワンマン『三度目の正直』  
 open 12:00/start 12:30 ticket free (+ drink charge)

2011.8.26 (fri) at 新宿 ANTIKNOCK  
 新宿 ANTIKNOCK × アザラシ × VAIN 共同レコ発企画  
 ※ イベント詳細はHPでCHECK!

# リンキィディンクエンジニアコラム 第9回目!



初めまして。  
WARPでPALしている石井と申します。

WARPのことざっと書きます。  
地下です  
スタッフ変です  
店長見た目こわいです  
でも美しい人です  
クラブでもあります  
ヤーマンです

1F toosmellです  
赤石さんいます  
CD買えます  
つーか買ってます  
サイコーです  
当たり前です

2F スタジオです  
スタッフ変です  
受け付け狭いです  
その分近いです  
たまに好きいです  
サイコーです

- ADDRESS  
〒180-0004  
東京都武蔵野市吉祥寺本町1-30-10
  - TEL  
0422-22-3514
  - FAX  
050-5552-7772
  - E-MAIL  
warp@rinkydinkstudio.com
- www.rinkydinkstudio.com/live/warp/



## 事情聴取



文：伊藤広達 (killie)

と言う訳で、  
単身、福島はいわき市に行っていました。

前日、相変わらずの予告も無しに BALLOONS 藤本大輔から「とりあえず新宿向かいます」とのメールが。仕事終わりに電話をかけたら HEAVEN IN HER ARMS のケントと BALLOONS 塩さんも一緒に車でタクシーで駅前まで向かい、深夜で誰もいない大ガード先の十字路の信号辺りで原付を開んで意味不明な行動をとっている異常な三人組を発見。で合流。飲んでる最中に先にケントが退出、店を出た後に始発まで時間があるのでカラオケに行く事になったが、ここで塩さんが抜け結局二人で朝までカラオケ。なので翌日苦しいに起きて向かう事に。以前のコラムでも書かせて頂いたが、検閲や推測だけで震災の事を語っているの何か釈然としないのが引かかっていたのと、丁度その頃はいわきに住むルイちゃんという自分のバンドで何度もお世話になっている友達とメールでやり取りする機会があり、内容は個人の事になるので詳しくは書かないが、ルイちゃん自身の置かれている現状がいまメールでは伝わりにくかったのが今回向いてる事となった。電車が動いているのかさ分かんない状況だったがネットで調べて JR 特急スーパーひたちという電車に乗り、茨城辺りの海岸沿いを走る電車内から外の風景を眺めていたのだが震災の被害らしき物一つも確認出来ないまま約2時間かけてルイちゃんの実家近くにある湯本駅(いわきの手前の駅)で降りた。降りたら降りたで普通に町は機能してるし、制服姿の学生も普通に駅を利用して。原発の問題も着しいわきだか誰もマスクしてたりする事も無く普通に生活していた。ルイちゃんの車に乗せてもらうとすぐに駅前の古い建物一件だけが「営業中止、近つかないで下さい」的な看板が貼られてあったが目立った外傷も無く、車を走らせてつ流れていく町風景を見ながら今現在の詳しい被害状況等を色々聞いては見たものの、既に震災からまる2ヶ月過ぎていた事もあってか撤去や倒壊も進んでいるからか、これと言って驚く様な光景を見る様な事も無く、道路が歪んでいた少し傾いた古い家の瓦屋根の上にビニールと石を乗せているのをたまに見る(分かんない?) ぐらいなものだった。被害が大きいと言われている小名浜港方面に走らせてもらうにつれ何故か道路にゴミが多い事に気付いた。いわきの町の人

はゴミに関して無頓着なのか? ぐらいに思っていたのだが海岸沿いに近づき二号埠頭アクアマリンパーク辺りに差し掛かると情景は一変、海岸沿いにある家や店、聖や港、津波で破壊された様子が目の前に飛び込んで来た。道路にゴミが多かったのは津波で流されたゴミが道路上にまた残っているのが原因だと言う事を教えてもらいつつ、その付近の海岸沿いは立ち入り禁止になっていたので海岸がある北の方に車を走らせてもらう。そうすると古い家が壊れたままで道路の片方を塞いでいたり、崖が崩れて道路にはみ出していたり、平屋を含めた一階付近が軒並み骨組みのみになっていたりと、被害の姿を物語っていた。骨組みの家の前では家族が話し合いに固らしている姿がよく見られてホッとした部分もあったが、正直この状況でどうも出来ないうまま時だけが過ぎているという感じで、人々は落胆しているというよりはかは「考えても無駄」という印象を受けた。海岸沿いではただ単にさぼっているだけかもしれないが、仕事を無くした様な人がぼーっと海を眺めている姿も見受けられた。近くにある公園に降りて散歩しつつつ方を迎え、その夜はいわき市内にある TO OVER FLOW EVIDENCE というバンドをやっている後藤がスタッフで働いて、いつもお世話になっているライブハウス SONIC におじゃました。俺も今ライブハウスで働いている関係で様々な事を聞きつつ(細かい事は割愛) 震災の事は口にしなくて現状をしっかりと把握に変えて働いている彼とスタッフに強さを感じた。その日の SONIC は高校生のイベントで見に来ている人達も制服姿が多かったが普通にライブハウスしていた。先にルイちゃんも居酒屋に行つて、仕事終わって向かう後藤を待つ事に。すぐに後藤が来て震災の影響等を話し合ったが、最初冷静だった後藤の口からも飲んでいくと震災から来るバンドやライブハウスの偏見の感情がぼろりと出始め、話す時暗い雰囲気になるからと、普通にお互いの今後を話し合っただけで希望にみちた話に終始する形になった。結局はお互い考えている事はそんなに変わらず、だったが、俺は後藤の口からたまに出る苛立ちに震災の被害が直接ある所と、そうではない場所の違いを感じては一瞬口を閉ざすのだった。

…次回に続く



### LEE PERRY / Arkology

俺が本格的にレゲエ/ダブを認識し驚愕した最初の盤。リーペリーの所有スタジオ(様々な日々で全滅した) BLACK ARK での仕事集(多と思う)三枚組。  
彼自身によるボーカルは2、3曲に留まらなかつたという手法でここに収録されている数々のアーティストやバンドの音をミックス、プロデュースする事と自分の音を世に出した決意。入。  
当時シマイカは貧困や階級差別、政治問題等で酷かったらしいですが音にも現れている様に普段の生活はマリファナを吸って楽にしよう、というリラックスの傾向が強く、さすがに吸われてる事や活動自体は物凄く過激なアーティストが多く、そこをイロノミのノックが共通したのも頷けます。初めて聞いた時はあまりにも聴いた事の無い音だったのでビックリしました。

佐藤島の地球一周旅一座  
**デリシャスウィーツ**  
 ウンパツパニュース!



著：佐藤島

どうもみなさまこんばんは、あなたの夜のお友達、フクロウおばちゃんでございます。

さてさて、いよいよ夏が近づいておりますが皆様いかがお過ごしでしょうか？わたくしこの時期の毎年恒例行事でございますが、いまだ衣替えが終わらず、毎日暑苦しい日々を過ごしております。もしやすると、今までからしても最高記録かもしやせん。コタツ、そして、冬用の羽布団もまだスタメンとしてグラウンドに出ています。こりゃいかんぞ、うん、いかにいかに。こんな部屋に突然、男子が遊びに来る事になったらどうするっていうのだ。チャンスはいつやってくるのかわからないのだ。いかにいかに。と思えば思うほど、そのプレッシャーからか、何のプレッシャー？一向に手がつかない事って、みなさんもありますですよね・・・？

そんな訳で、暑苦しい部屋から脱出すべく、近所の緑道で読書(『魔女と聖女-ヨーロッパ中・近世の女たち-』講談社現代新書)などしておりますと、10年来の付き合いであり、現在CMディレクターなんぞして立派に活躍中の親友からメールが届きました。「来週、あなたの家の近所に引越します」との事。あれれま。近頃、わたくしの第2の故郷である愛すべき中野に、知人・友人がソクソクと引越して来ておまして、チーム中野の組織は巨大化しつつあります。皆様も中野に引越した際は、こー報下さいい(fukrouou@derisyua.com)。その友人と出会ったのは、もうかれこれ18年ほど前でありまして、食欲旺盛な20代、お互い体重65kgを越える人生の最も野生化しているデブっちよ青春時代に会ったわけですが、「股ズレ」がいかに不快であり、思わぬ珍事を巻き起こすかという話題で盛り上がっております。「股ズレ族」には常識の事ですが、ストッキングをはきますと、200メートルくらい歩いた時点で股の摩擦によりストッキングがずれ落ち、ほぼ脱げかかった状態になります。あれから18年。そんな私達もストッキングはズレ落ちなくなり、足も組めるようになりました。歳を重ねるとは非常に面白いもので、絶対と思いでいた物が実にスローなペースで絶対を消去して参る事でございますよ。その親友とは、「大金を払って芸術を鑑賞するの会」を結成しております、定期的にその名の通り大金を払って芸術を鑑賞しているのですが、ピヨンセ、シンディ・ローパー、KISS、カイルー・ミノーグと、近年、外タレが続いておりましたので、久々に演劇鑑賞に行ってまいりました。「ナイロン100℃」というケラさんが率いる劇団の公演でございますが、お馴染みの看板役者さん達が20年ほど前から変わらず活躍されております。デブっちよである事を悩んでいた青春時代、デブっちよキャラで大人気であったこちらの看板女優さんに私達は実に勇気づけられたものでした。しかし、この度拝見した所、その女優さんも随分ホッソリとした姿に変わっていらっしやまして、なんというか、同じ年月を過ごしているのだと、なんだか嬉しい気持ちになりました。と、そんなしんみりした気持ちをアンケートに書こうと思いましたが、その女優さんからしたら「どこ見てんですか、あなたがたは」って話に違いないので辞めました。親友も同じ事を感じていた様で、あれほど

苦勞した「股ズレ時代」の事を懐かしみながら渋谷の中華料理店で一杯やつたのでした。

わたくし、70歳でミニスカートをはいてデリシャスウィーツをやる事をひとつの楽しみにしておりますので、あと30年近く頑張りなほばいけません。70歳を迎えたあかつきには、「デリシャスウィーツ老化の過程写真展」を開催したいと思っております。その為、記録写真は膨大に撮りためておりますので、みなさまどうぞ、30年後をお楽しみにして下さいます。

そんな訳で、どんな訳で?デリシャスウィーツの旅路は、70歳に向けてまだまだ続くのであります。(つづく)



写真/榎野ウーゴ



\*\*\*\*\*  
 《出演情報》

- 6月30日 東洋館スペシャル寄席VOL.14/浅草東洋館
- 7月13日～16日 見世物小屋/靖国神社もたま祭り
- 8月14日 長野HAKUBA47 WINTER SPORTS PARK
- 8月28日 ROCK ANOHEYS 2011/ハイランドホール飯綱
- 9月 9日 デリシャ●カーニバル とびだせ!人間VOL.24・下北沢QUE ゲスト/頭脳警察、マギー直樹(7月1日より前売り開始!)
- 毎月第3金曜日 阿佐ヶ谷今日のひるにて「スナック喫茶\*人間」開催中!

※詳細はホームページを御覧下さい!

●ホームページ <http://www.derisyua.com>●



depOn

Vol. 102 / July

毎月25日発行



広告募集中

depOnでは掲載していただける広告を募集しております。詳しくはご連絡下さい。

PUBLISHED, EDITED, WRITTEN and DESIGNED  
 by Rinky Dink Studio  
 CONTACT to depOn : [depon@rinkydinkstudio.com](mailto:depon@rinkydinkstudio.com)  
 ※本誌に記載されている料金は全て税込になります。

<http://rinky.info>

創刊 2003年1月25日

発行 月刊(毎月25日)

項数 40項(2008年5月号より)

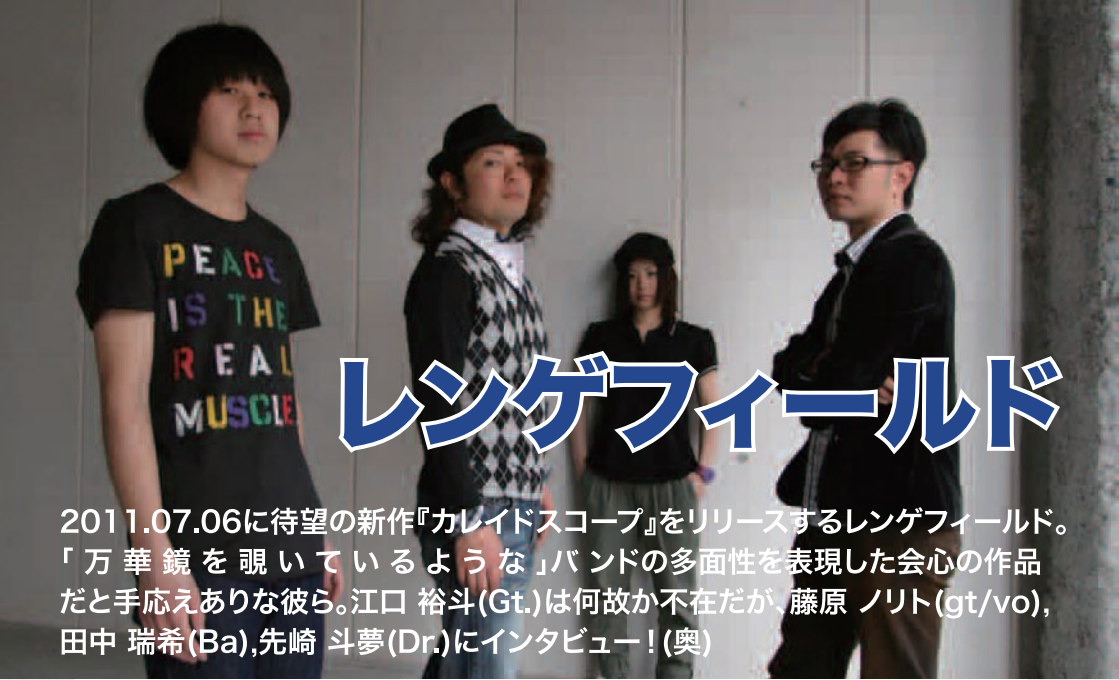


発行人 杉山 一夫  
 depOn編集長 宮崎 洋平  
 副編集長 森武 久美子 / 萩原 祥子

編集 高橋 紀恵 / 小牟田 玲央奈 / 奥 泰正 /  
 大貫 政幸 / 石塚 明彦 / 伊藤 広達 /  
 久保寺 豊 / 西田 大介 / 松岡 弘子 /  
 脇田 将行 / 浅井 拓郎

発行所  
 リンキディンクスタジオdepOn編集部  
 〒152-0032 東京都目黒区中目黒1-22-15  
 TEL 03-5731-9599 FAX 03-3723-2344  
[depon@rinkydinkstudio.com](mailto:depon@rinkydinkstudio.com)

印刷・製本 昭栄印刷株式会社



# レンゲフィールド

2011.07.06に待望の新作『カレイドスコープ』をリリースするレンゲフィールド。「万華鏡を覗いているような」バンドの多面性を表現した会心の作品だと手応えありな彼ら。江口 裕斗(Gt.)は何故か不在だが、藤原 ノリト(gt/vo)、田中 瑞希(Ba)、先崎 斗夢(Dr.)にインタビュー!(奥)

奥:よろしくお願ひします!

レンゲフィールド:よろしくお願ひします。

奥:まずアルバムリリースおめでとうございませう。

レンゲフィールド:ありがとうございます。

奥:depOn初登場なんで、まずバンド名の由来とか聞いちゃおうかな。

藤原:和訳するとレンゲ畑なんです。ラーメンのやつじゃないんです(笑)。

奥:ラーメンのレンゲじゃないんだ!(笑)

藤原:花の方です。

奥:蓮華が好きなんだ?

藤原:そうですね。蓮華って上から見下ろすじゃないですか?その時にばって一面に咲くんで、ライブでじっくり聴いてくれるお客さんと蓮華畑って似てるなあって思ってこの名前にしました。

奥:なるほどね。今回のアルバム、『カレイドスコープ』というタイトルですが、タイトルに込めた思いは?

藤原:『カレイドスコープ』は万華鏡って意味なんで、角度を変えると色々な風に見える。前回のアルバムは暗めの曲が結構多かったんで、今回はポップ目に少し明るいめの曲や、珍しくアップテンポの曲も入れたりして、バラエティーにとんだ作品になっていると思うのでこのタイトルにしました。

奥:アップテンポの曲入ってるんだ!?

先崎:そうですね。今回初めてアップテンポの曲にチャレンジしました。普通に創ってるとどうしてもミッドテンポの曲が多くなってしまふんで、バンドとしての新しい一面も見えんと思ひます。

奥:意欲作なんだね。

藤原:そうですね。前回はライブで出来る事を詰め込んだんですけど、今回は制作の段階からエフェクト関連やアルバム構成の事とかも色々と考えてましたね。

奥:アルバム通して込めたメッセージとかってあるのかな。

藤原:結構一曲一曲に込めた感じですね。前回のアルバムが『ツナガリ』ってタイトルで、それがテーマだったりしたんですけど、今回は色々な色が見れるっていうのがテーマなので、それぞれに気持ちを込めた感じですね。

奥:なるほどね。

藤原:ただ、人と人との『ツナガリ』を大事にっていうテーマは継承しつつ感じてます。

奥:人と人の『ツナガリ』を大事にっていうのはバンドとしてのテーマなの?

藤原:まあ、温かみのあるバンドではありたいと思ひますね。メンバーの人間から出る温かみを大事に。

奥:みんな優しいもんね。江口に関しては優しいとか無関心とか…(笑)

先崎:そうですね(笑)。温かみやPOP感の中にある僕らの変化球がまた意外性もあって楽しんでもらえると思ひます。

奥:アルバムはどんな人にも聴いてもらいたいとかある?

藤原:日常に疲れてる人とかに聴いてもらいたいですね。疲れて家帰って来た時に安心出来るような楽曲だと思います。

先崎:前回はもう少しつつき安くなっていると思うので、そういう面でもPOPなものを好きな人にも聴いてもらえる作品になっていると思ひます。

藤原:うちの面白さっていうのは、それぞれのバックグラウンドはあるんですが、よく言われるクラブっぽいとかアシッドジャズとかAORとか、そういうジャンルが全くそれぞれのバックグラウンドに無いんですよ(笑)。

奥:まじか!(笑)

藤原:ただ、みんなが集まって曲を作るとそういう曲が出るだけなんですよ。

先崎:なんなら最近かじり始めたって(笑)。

奥:じゃあライブ終わってその迎の話に詳しい人に話しかけられると…

藤原:凄く話がわからなくて申し訳ないです(笑)。

奥:じゃあ影響受けたバンドとかって特にないの?

藤原:結構メンバーそれぞれはばらばらですね。

先崎:一応このバンドに誘われた時はボーカル(藤原)の方からMAROONSみたいなバンドやろうよと…

奥:ごめん。それは感じた事はなかったな(笑)。俺的にはSugar babeとか好きなのかな?って思ってたけど。

藤原:でも影響受ける感じではないんですよ。僕ははっぴいえんどとか古めのものの方が影響受けてます。

田中:今日来てないギターの彼だけほとんど何に影響受けるのかよくわからない(笑)。

藤原:彼も完全にBEATLESに影響受けてるけどね(笑)。

奥:彼は音楽的幅がメンバー内でも一番広いので、色々なものにも影響受けているみたいですね。

奥:ツアーとかは結構まるわるの?

先崎:そうですね。7月9日に北沢ReGでレコ発が決まっています。そこから少しずつ長めにやる予定です。ファイナルは八王子Match Voxで12月10日にやります。

奥:ファイナルよろしくです!今後の活動の予定を教えてください。

藤原:とりあえずはツアーですね。色々な方に聴いてもらいたいのので、色々な所の人に出ればなと思っています。

奥:なるほどね。そろそろじゃあ最後に一言お願ひします。

藤原:今回のアルバムに関しては前作よりもレコーディングも納得出来ましたし、うちのバンドの色々な面の見える深みのあるアルバムになっていますので、是非7月9日から始まるレコ発ツアー遊びに来て下さい。

奥:ありがとうございます!

レンゲフィールド:ありがとうございました!



<7songs mini album>  
『カレイドスコープ』  
1.あの丘で (introduction)  
2.流星ライナー  
3.ツナガリズム  
4.デイドリーム  
5.旅に出る  
6.マーベラス  
7.ひたすらに

発売日:2011/07/06  
品番:RDXC-014  
価格:税込¥1,300 (税抜¥1,238)

# hachioji RIPS

## NEW COMER ARTIST INTERVIEW!!



### Filter Cigarettes interview

●それでは自己紹介をお願いします!  
シラネ: ポーカルバンドのシラネです!  
竜井: ベース・キーボードの竜井です。  
●ドラムの堀江さんも年を取ったん(笑)  
堀江: 年取ってないよ!そりゃだって高校生  
の時か知らずるんだからそう思うかも  
知れないけど。  
●三人合わせて?  
シラネ: そんな感じがですか(笑)!  
一同:(驚)  
●よし早速いこうFilter Cigarettesは  
言葉に表すとズ(ウ)どなんバンド?  
シラネ: 難しいですね。  
竜井: それって人間性?  
●いや音楽的に  
竜井: ゆるい〜ポップパンク…メロディ  
ックパンク…?  
シラネ: 決まって無いんですよ僕ら!  
竜井: パーソポップで押し付けてくれれば。  
●シラネはWEEZERか好きだもん  
ね。でもそこを目指してる訳じゃないもん  
ね?  
シラネ: そうです。ただ好きなので  
す。  
●だよね。しかもFilter Cigarettesで  
取って自分達でB級を語ってるのも度胸  
あるよね(笑)  
シラネ: 前まではそう言うのあったん  
ですけど、今はそんな感じにないですね。最近  
はまあカッコつけてる訳じゃないんです  
けど、好きなバンドの真似とかじゃなく  
自分達のオリジナルテイというか(笑)。  
●恥ずかしくないな(笑)今は別に何が  
どうって訳でもなく。  
シラネ: 悪い意味でも何にも考えてない  
ですね。自然にやります。ーフツツ  
竜井: でも何か楽しさを忘れないよう  
に。楽しくないと私たちじゃないみたい  
な。  
堀江: そうだね!  
シラネ: 楽しくなかったら辞めちゃう  
まよね。  
●楽しくライブやってるのも見てわか  
るよね企画もよくやってるよね9月と  
12月にあるんだよね!  
竜井: 今年は3ヶ月に一回のペースで  
やっています。  
シラネ: まあ来年も春くらいにやります  
よきっと。  
●12月の企画はレコ発になるんだよね?

な感じで。  
●しかし始めた時はメンバーも大分  
変わって、今はけっこう活動の幅も少しず  
つ広がってあるよ。  
シラネ: 昔は八王子ぶっかてたから  
ね(笑)。  
●フットワークがめちゃくちゃ軽かったよ  
ね(スゲー出てたイメージ!)  
シラネ: 3年前とかはもう滑ったっす  
ね(笑)。  
●さて、企画の話や音源も作る話では  
たけど、他に何か伝えたい事は無いの?  
シラネ: そうですねえ。なんかぶさ  
かてて欲しくないって事をみんなに分かって  
欲しいですね。ライブだったり、ライブで  
演奏より聴いてたりもするけど、真面目に  
やってるよって(笑)。  
●全て計算し尽くされたはずだぞ。  
シラネ: うーん、そこまでいらないです  
けど(笑)。  
●まあ本当に絡めるとこは絡めると自由  
ではあるよね(特B級のFilter Cigarette  
s!)  
シラネ: B級映画の様な味が欲しいです  
よね。  
●白米みたいな(笑)?飽きのこない感  
じ。  
堀江: 白米(笑)?  
●まああるのが当たり前みたいな。プ  
ームにはならない変わりに売れないみた  
いな。  
シラネ: それいいですね。頂きましょ  
う。  
●プームは起こさないが常にジーンに  
いたみたいな(笑)。結構締めたぞね!  
シラネ: まあ勝俣みたいな感じ!  
●音楽会の優勝(笑)いいいなよし最後に  
堀江さんんで!  
竜井: ほつライブで一一緒に遊びましょ  
うとか!  
堀江: 私たちとライブハウスで遊びま  
しょうね!  
●言わされてる(笑)。ありがとうございます  
した!

**Live Schedule**

- ・ 7/3(火)初台WALL
- ・ 7/12(日)八王子RIPS
- ・ 7/31(日)吉祥寺WARP

HP <http://8c5nco.jp/filtercigarettes>  
MySpace <http://www.myspace.com/filtercigarettes2>



### Beechams Powder interview

●簡単に自己紹介をお願いします!  
上塚: Gt/Voの上塚です!  
佐藤: Baの佐藤です!  
冬木: Drの冬木です!  
●三人合わせてBeechams Powderな  
訳だけでも、これ正しい呼び方は?  
上塚: ビーチャムズパウダーです  
ね。  
●なるほど。これどういう意味なの?  
冬木: これ、あの?。イギリス製の  
風邪薬っていう意味なんですけど。  
●?(笑)。  
上塚: いや、なんか辞書でこ「え  
い」って開いたらそれでした(笑)。  
佐藤: 昔、高校生の時に思いつか  
なくて。  
●あれ?結構昔からやってるの?  
上塚: 僕と佐藤は高校からです。  
そして二人で上京して来て冬木と  
出会いました。  
●なるほど。出会って言うのは?  
上塚: 去年、僕と佐藤が上京しま  
してメンバー募集で冬木が引っか  
かって。  
冬木: 釣られました(笑)。  
●メンバー募集で釣られたと(笑)。  
佐藤: メンバー募集のサイトで釣  
り上げました。  
冬木: そして初めてスタジオに  
入って取りあえず合わせてみたん  
ですけど終わったら飲みに行こ  
うって言われた。  
上塚: ほほ初対面なのに(笑)。  
冬木: 初対面なのに飲みに行って  
もうベロベロで(笑)。  
佐藤: もう泥酔してたね。  
上塚: そうして、あんまり記憶がな  
いという(笑)。  
冬木: まあそこで、やるうってこと  
になっ。  
●そうなんだ!飲みに行って良か  
ったじゃん(笑)。しかし良いバンド  
だね好きな音楽ってなんかある?  
佐藤: それは興味がある?  
●いや英語詞にも興味がある?  
佐藤: それは興味あまり無い  
ですね。プラス、イースタンユ  
スや元を辿ればミスチルなんかも  
好きなんですけど、だから日本語  
の方が。日本人だしみたい。  
●なるほどね。上塚君は?  
上塚: 僕はジャパニーズポップス

ですかね。やっぱり。イースタン  
ユースなんかもちろん好きです  
し、アナログフィッシュとか。言っ  
ちゃえばaikoも好きです。aikol  
になりたいですもん。  
上塚: 違うよ(笑)。  
●(笑)。まああんなじゃ冬木君は?  
冬木: 僕はカーペンターズとビートル  
ズです。  
●王道と言えば王道だけど君が  
言うど意外だね(笑)。  
冬木: もう大好きすぎて!初めて  
買ったCDがその二組なんです  
よ。テレビで見て好きだなんて思っ  
て。  
上塚: メンバー募集のプロフィー  
ルにもビートルズ聞いて自覚めた  
みたいなの事書いてあって。こいつ  
は間違いないと(笑)。  
●確かに(笑)そんなBeechams  
Powderの売りは?  
上塚: やっぱメロディーライン  
じゃないですかね。  
佐藤: そしてシンプルな楽曲。  
冬木: タワレコのポップに書いて  
ありそう(笑)。  
上塚: (笑)。あと歌詞もね。僕ち  
よっぴひねくれてるんで、なんか歌  
詞とかもひねくれてるんですよ。  
自分に歌ってるんですけど。  
●確かに良い曲歌ってる気がする  
ですね。なんか伸びるすごいよね  
だね。ポピュラー感半端ないし。  
冬木: でもコアな事やりたいて  
上塚: うちもあるんですよ。  
佐藤: 自分たちのやりたい事を  
やっていきたいですね。  
●8月、9月には新たな音源も  
できるしね!そんなまだまだ始まった  
ばかりのBeechams Powderで  
さ、最後に皆さんへ一言!  
佐藤: 僕らMySpaceとかもない  
んで是非ライブ来てCD買って欲  
しいですね。  
冬木: 一生MySpaceは作らない  
ん!  
上塚: ないでライブハウスに来て  
くたないと僕らの音楽は聴けない  
のでライブハウスに足を運んでく  
れたらと思います!  
●なるほど。ありがとうございます  
した!  
一同: ありがとうございます!

**Live Schedule**

- ・ 7/2(土)八王子RIPS
- ・ 7/23(土)甲府KAZOO HALL
- ・ 7/30(土)新宿NINE SPICES

HP <http://beechampowder.otsape.net>



インタビュー、ページの制作、デザイン、その他もろもろ、担当マツオカ(MEETS)

ハロー！ハロー！天気がいいよ！  
青空トレインでお出かけしよう！  
(MEETSマツオカ)

ハロー青空トレイン  
×  
名古屋HeartLand STUDIO  
東名交歓  
イベント

# 「ハロー東京！ ハロー名古屋！」

●7月8日(金)名古屋HeartLand STUDIO●

【出演】

あきいちご(名古屋)、Alice Note(名古屋)  
ハロー青空トレイン(東京)、リリリ(名古屋)

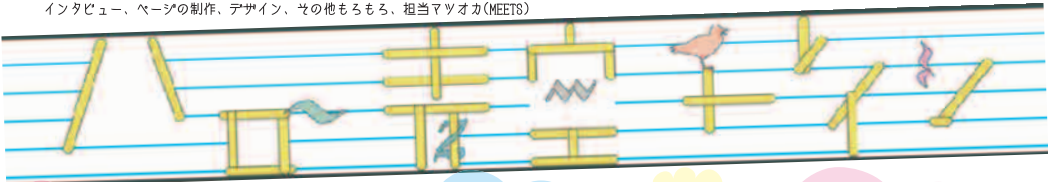
open18:30 start19:00  
前売¥2000 当日¥2500

●7月9日(土)大塚MEETS●

【出演】

ハロー青空トレイン、THE COKEHEADS  
リリリ、あきいちご(from名古屋)

open18:30 start19:00  
前売¥1500 当日¥1800



マツオカ(以下●)：おはようございます！  
一同：おはようございませう！  
●：ハロー青空トレインさん！今日はインタビューよろしくお願ひします！  
一同：よろしくお願ひします！  
●：では、まずバンドの紹介をお願いします！

りっ：はい！ハロー青空トレインは、東京近郊と名古屋を中心に活動しています。『切ななポップ』という感じで、元気な楽しさでみんなを笑顔にしていくことを目的にやっています。人を笑顔にするには、まず自分が思いっきり楽しまなきゃと思っ、ライブは思いっきり楽しんやっています。

●：ちなみに、バンド名はどうやってつけたの？

りっ：えーと、バンド名って英語の名前が多いじゃないですか。その中で目立つようにカタカナにしようって、ポップな単語と爽やかな単語をリストアップして組み立ててきました。最初は青空トレインだったんですけど、ノリでハローもつけちゃって！(笑)

●：なるほど(笑)。では、続いてメンバーさんのお名前を！

りっ：はい！  
ピアノ&ボカルのりっです。  
みき：ベースのみきです。  
えり：ドラムのえりです！  
ますみ：ギターのますみです。

●：はい、ありがとうございます。  
今回は、7月と9月に東名交歓イベントをやるというところで、それに合わせて聞きたいと思うんだけど、どんなイベントなの？

りっ：はい！東京は大塚MEETSと名古屋はHeartLand STUDIOのそれぞれで活動しているバンドさんに出演してもらって、

交流だったり活動の幅が広がるきっかけになっただけ、と思っ交歓イベントを企画しました。

東京と名古屋の2デイズで、(イベント名は)そこの名も！『ハロー東京！ハロー名古屋！』です！7月がvol.1と9月がvol.2です。

●HeartLandはよく出てるの？

ますみ：えーと、1年ちょっと前くらいはなかなか…、大体2ヶ月に1回のペースで出演させてもらっています。名古屋の方も見に来てくれるお客さんが増えてきて、こうやって企画もやらせてもらえたり…。

●HeartLandはどんなハコ？

りっ：壁が真っ白で明るい雰囲気なハコです。スタッフさんも良い人ばかりで、本当に良くしてもらっています。毎回出る度にまた出たいなって…。

ますみ：HeartLandの畑中さんは、とても親身になってバンドの活動を一緒に盛り上げてくれるアッキングマンです。名古屋HeartLandは第二のホームです！

●：じゃあ、大塚MEETSについても少し！  
りっ：対バンさんともすごく仲良くなれるようなアットホームなハコで、ライブやる時もお客さんの温かさという温度が近くて、大好きなライブハウスです。

●：ありがとうございます！

というところで、7月に東名交歓イベントをやるわけですが、その前にMEETSでワンマンをやるよね。このインタビューが読まれる頃には終わってるとけど、ワンマンについて少し聞こうかな。

りっ：はい！6月のワンマンは、ハロー青空トレインにとって初のワンマンで、ハロー青空トレインを存分に満喫していたんだけど、というところで、座ってゆっくり楽しんでもらう感じなんです。

ますみ：主旨としては、今まで応援してく

れている人たちへの感謝状です。  
りっ：ありがとうの気持ちを含めて、今まで出してききた曲をほとんどやりますし、間にけり引き大会があったり…(笑)。

●：くじ引き大会！?(笑)

りっ：Tシャツが当たります(笑)。あと、紙蔵プロマイドがあったり…(笑)。ますみ：俺のね。1枚10円から(笑)。

りっ：企画いっぱいなんです！ワンマンでできる事を全部盛りだくさんにしてやるので、すごく楽しみにしています。(6/3のハロー青空トレインワンマンライブ『感謝状』〜いつも応援してくれて本当にありがとう！心からの感謝を込めて、ワンマンライブを開催します。〜はソールドアウト！大成功でした！)

●：では、最後にこのdepOnを読んでいる皆さんに一言ずつお願ひします！

ますみ：これを読んで、初めてハロー青空トレインを知った方は要チェック！

チェクラ！！  
一同：(笑)

えり：楽しいライブをやってるんで、ぜひ見に来て下さい！

みき：ぜひ一度！  
ハロトレライブへカモン！

●：では、りっちゃんにまとめてもらおうかな。

りっ：今年は大塚MEETSさん色々企画をさせていただきます。あとアルバムとPV集も制作しているの、どちらも楽しみにして頂きたいです。

ライブ来てね！楽しいよ！というところで、よろしくお願ひします！！

●：はい。では、オチを…(笑)。

ますみ：実は2ページお願ひします！

一同：(笑)

●：ありがとうございます！

(笑)。

■「これは恐らくこうなるんじゃないか」ってものが、なかなか無いって事だね。そういうのはお互いに「裏切ろう」みたいな気持ちで作るの?(笑)

中根: あんまりそういうわけではないんですけどね(笑)。たぶん、みんなバラバラに来て、「こうなるんだ」みたいになって、「いいのかな〜?ままとってるのかな?ままとってないのかな?」っていうものがあるんですけど(笑)。でも、それを含め自分達で。もちろん、最低ラインは守りつつっていうような感じで。そういう意味では、とにかくみんなの個性を尊重するっていう。

■ じゃあ、バンドで決め事じゃないけど「こういうのはやめよう」とか「こういうのはないよね」とかそういうのって無いんだ?

田村: 無いですね。

■ でもあるでしょ?(笑)

田村: 自分が嫌だっと思うのは嫌なんですけど……。

■ え?どういう事?(笑)

田村: フレーズを持ってこられて「これは……ダセえな」って思ったら、さすがにNGは出さずんですけど。ジャンルがどうか、そういう縛りは無いです。良いと思ったらそれに乗っかる感じですね。

■ 音楽的なね。でもさ、やっぱりなんとなくmusiquo musiquaっぽさみたいなものってあるじゃない?この5曲の中で1番自分達っぽくないなって思う曲ってどれ?

田村: 5曲目ですね(笑)。

■ やはり(笑)。これはどんなふうにして?

中根: 一番最初は僕がベースでイントロのフレーズとか、Aメロとかのコードリフというか……っていうのを持ってきて。そこから広げていった感じで。普通のリズムよりもちょっと細かい音が欲しいって言ったら、変則的な刻みになって。でも、「この曲だったらめっちゃくちゃすごい事を3人でやる事はしないでおこう」っていうのだけはありました。

田村: イントロ聴いた時に……。

■ 「ちょっとねえな」って思った?

田村: いや、逆に俺は新鮮でいいなと思って。このアルバムの曲は、これ作る時には3曲ぐらいの状態だったんですけど、1個ぐらいほとんどギターがコードだけっていう曲があってもいいなって思って。そういうアプローチでみんなと話して。今までとちょっと違った感じが欲しかったんで、3連にしてみたり……。中根: 3連の曲って何気に初めてだったので。あと、今までにあまり無い曲っていう所もあって、いろんな試みっていう形で今回レコーディングにハイスイノナサのキーボードの田村さんとボーカルの鎌野さんにゲストボーカルとピアノで参加してもらって、またちょっと違う雰囲気のものが出来たかなって思います。

田村: ずっとやってみたかったんですけどね。ピアノと女性コーラスっていう。

■ 自分達に無い部分って所だね。なるほどね〜、そんな1枚になっていると。

田村: そうですね。

■ それで、6月22日にリリースで。リリースツアーもすぐ始まるよ。

田村: 初だそと(笑)。

■ あ、初めて?ツアーっていうものが。

中根: はい。単発の遠征しかした事がなかったです。

田村: まあ、連日行ったりとかはあんまりないんですけど(笑)。

■ 週末に行きます的なね。そして、ツアーファイナル! star pine's caféでワンマンやると!

田村: 初です!

■ どうですか?曲はどれぐらいやるの?

中根: 15曲……出来るかなってぐらいです。

■ 15曲だとどれぐらいになるの?

中根: 1時間半……ぐらいを考えてますね。

田村: 15曲ってすごい事になると思うんだけど(笑)。

■ やっちゃうぞと。楽しみですか?

中根: 楽しみです!自分達の挑戦っていう所がものすごく。

■ じゃあ、最後に一言いただいてインタビューを締めようかなと。

田村: この5曲に今の僕らが持っているものは全部出ると思うんで、これ聴いて是非ともコピーしてもらいたいです。バン

ドマンの憧れ!自分の曲をコピーしてもらえるっていうのは(笑)。まあ、頭からケツまで通して楽しめる曲達だと思っております。楽しんでほしいですね。もちろん、楽器で面白い事やってるし、僕自身メロディアスというか……メロディーが1番っていうのがあるんで。メロディーにもこだわってるし、いろんな事やってるし。ワクワクしてほしいです。

中根: コピーしてほしいですね(笑)。今回、DVDの特典をディスクユニオンとかタワーレコードでつけているんですけど。それに、ちょっと恥ずかしい事に……。

■ 教則! 教則DVDをつけてほしい(笑)。

■ うわ〜、今分かつちやったよ。知らなかったのに(笑)。

一同: (笑)

中根: webにスコアっていうか、タブ譜も1部作っただんで。すごく2chとかで叩かれそうで恐いんですけど(笑)。そのくらいは覚悟の上でやってるんで。

■ いろんな仕込みもありつつ、そういう部分も楽しんでほしいなと。

中根: そうですね。見た目も面白い事やってると思うんで、是非ライブに来てほしいです。

■ ファイナルまで頑張ってください!!

一同: ありがとうございます!!

**NOW ON SALE!!!!**

## 1st mini album "musiquo musiqua"



1. すみっこ 2. 広がる世界  
3. sss 4. 小さな声 5. 今日と明日  
1500yen(tax in) XQHL-1007

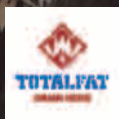
## musiquo musiqua 1st mini album release tour 「ムジコとムジカの今日と明日」

- 6/25(土) 渋谷club 乙  
7/02(土) 大阪心斎橋FANJ  
7/03(日) 京都clubMETRO  
7/16(土) 松本Sound Hall aC  
7/18(月) 名古屋DAY TRIVE  
7/31(日) 渋谷La.mama  
8/20(土) 仙台Birdland

9/17(土) 吉祥寺STAR PINE'S CAFE  
〈ツアーファイナル・ワンマン〉

OFFICIAL HP <http://musiquo-musiqua.x0.com/>

# TOTALFAT



new album  
『DAMN HERO』 NOW ON SALE!!

<http://www.totalfat.net/>

【初回限定生産】

KSCL 1800-1801 ¥3100-

【通常版】

KSCL 1802 ¥2800-

八王子から羽ばたき、最早日本を代表するバンドとなったTOTALFATを練習中に捕まえて突撃インタビュー！(奥)

奥:この度はアルバム発売おめでとうございます!

TOTALFAT: イェーイ! ありがとうございます!

奥: DAMN HEROっていうアルバムタイトルだけど、どういう意味なの?

Bunta: だめなヒーロー。

奥: まあこういうのは別のインタビュー読んでもらえればいいか。

Shun: そうだね。それに俺らのだめさはおっくんが一番知ってるよね。

奥: ほんどだね。サーファーの時代からね(笑)。

Shun: 出た。前の前のギター(笑) 思い出話でもしましょうよ。

奥: そうだね! とりあえず今回のアルバム聴かせてもらったんだけどさ。

Jose: 本当に聴いたんですか? (笑)

奥: 聴いた聴いた! (笑) イメージ変わったなっていうのが正直な気持ちだね。活動の途中からさ、『Get It Better』とか出した時は結構「オラアア!」みたいな感じだったけど、ちょっとずつ今になるに従ってキャッチーになっていったじゃない? その迎心境の変化とかあるのかなって。

Shun: 昔は無理してる感というか、突っ張ってる感みたいなのが音楽に対してもあって、それは別にヘイトな感じとかファックな感じの中指てる感じの突っ張ってるじゃなくて、無理に洋楽っぽい方向に寄せようとしてたりとか、あと、やりたいことを無理矢理詰め込もうとしたりとか、できないことをやろうとしたりっていう部分が強くて。

奥: うんうん。

Shun: ツアータクさん回ってたりとかバンドが長く続いてたり、作品が出ていたりする上で、やっぱりなんなのも見たり聞いたり知ったり感じたりして、自分たちができる幅を広げながらその中でやっていく事の大切さみたいなのを知っていったっていうか。

奥: ふむ。

Shun: やっぱりアウェイ戦も増えるじゃないですか? バンドやっていく上で、海外アーティストと対バンしたりとか、フェスに出たりとか、初めてTOTALFATを見る人達とその日に勝負する時に無理をしすぎちゃってると、伝えたいものも伝えられなくなっちゃたりとか、そういうことが多くて、アウェイ戦に勝てないバンド的な要素が多かったんだと思う。

奥: なるほどね。

Shun: でもそれは自分たちで学習してたり、客観的にちゃんどものを言ってくれる人達の意見も聞いていて、できることをいかに人に伝えやすく整理して、綺麗にポップにやっていくことが大切っていうことを勉強していったつもりで、音楽をやる上で大切なことっていうあると思うけど、やっぱりある程度シンプルにしていったり、綺麗にしていったりっていうことの難しさももちろんあったし、そういう意味では年々つきつき詰めていってるのかな。

奥: 『Hard Rock Reviver U.S version』とか『Get It Better』とか俺意外だったの。「あ、こういうことやりたいんだ。」っていうふうにしてさ。初期は直球だったじゃん? そっからどんどん重めになってさ。こっち系で進んでくのがなって思ってたら、その次出たやつがすごいキャッチーになってて、でも戸惑いとかあったんじゃない? 1回ハードな路線に

いって、キャッチーになったりするとき、周りの反応とかどうだったの?

Bunta: そうなった。1番の原因はCATCH ALLのツアーの2006年? 2007年かな?

Northern19が売れて、その流れて同い年くらいのバンドが勢い出て来て「俺ら大丈夫かな?」みたいな。多分そういうのでこのままの路線だとやばいんじゃない? って空気もありつつ。

奥: 結構、あの時は友人受けになってたかもしれないよね。

Jose: Hard Rockのカバー集出して喜ばれたのライブハウスの店長クラスくらいだけだもん(笑)。

奥: なんがほら、日本のジレンマとしてバンドマン好きなバンド売れないみたいな空気感あるじゃん。

Bunta: ありますね。

奥: そういう空気があったんだね。

Shun: ミュージシャンズミュージシャンが抱える苦悩って多分すごいたくさんあって、みんなやばそこにも慣れるし、でもやっぱりその裏付けがあった上で何を聴いてる人にもしっかり評価されたっていう気持ちが強かったのかな。じゃないとメジャーにもいかないし。でもHard Rockをカバーしたから良かったこといろいろあって、『Hello & Goodnight』っていう自分たちにとって大きな作品が出来て、5曲しか入ってなかったけどあれで本当にTOTALFATの流れも変わったし、あれが書けたんですよね。そこでなんかすくすく自分らでいう答えがでて、あそこから始まったものがたくさんあるから、その時に手探りだけじゃわかったことがライブでちゃんと答えが出るといって、これが正解だったんだなってことがすごいたくさんあって。

Bunta: 自分から出たものをそのままそれぞれが出すみたいな。難しい事考えてやるんじゃないって、出たものをそのまま作って出来たものの方が意外と洋楽っぽかったりする。

奥: 原点だもんね、君たちにとって洋楽って。

Kuboty: ちょうど『Get It Better』の時は本当にいろんな洋楽聞いてたんだと思うんですよ、すごいハードなものも流行ってて実際かっこよかったし、やっぱり俺らなりに憧れて、俺らなりの解釈で、ただ、俺としてもファーストのTOTALFATがイメージだったから、セカンドで俺のせいであつたみたいになんか思われるの嫌だった(笑)。

Bunta: 思ったやついるだろうね!(笑)



Kuboty: からのハードロックのカヴァーだからね(笑)。  
Shun: でもあの時周りのバンドマンがすごい評価してくれて。  
奥: ああ。俺もあのアルバムいいアルバムになって思っちゃうかな〜。  
Shun: あ、「Get It Better」こそ肩に一番力入っちゃって、なんか周りのバンドマンを驚かそうとか、洋楽っぽいことをしようとかそういう事が考えてなくて。  
Kuboty: より言えば意欲作だね。TOTALFATの中で一番端っこにあるアルバム(笑)  
Bunta: あんなドラマ/ハマったことないもんあれ以来(笑)  
Shun: でもね、やっぱりあれで学んだ事も多かった。  
Kuboty: 本当「Get It Better」と「Hard Rock Reviver」あつてのだから。いろんな人に「回り道しなきゃならないじゃない?」って言われる。ファーストのあとに「Hello & Goodnight」の流れで良かったんじゃないかって、でもそれは絶対できなかった。  
Jose: それくらい俺らにとって大切な時期だったよね。あんなに楽しかったレコーディングもなかなかなかった!  
Bunta: 間違いないJoseの気が上がりましたからね(笑)。  
Shun: Hard Rockのカバーをレコーディングしてなければ、Joseくんはその後の「Show Me Your Courage」のキーが出なかった(笑)。  
奥: そうなの?  
Shun: そう! Hard Rockで鍛えたから、あの曲のキーが出るようになった!  
奥: あの頃じゃない? 立ち位置も変わったのって。  
Jose: そうすね!  
Shun: でも俺がセンターだったことなんてもう知っている人はほとんどいない。  
奥: そうかもね。お前がバンバンペース回してたことなんか!  
Shun: 俺がロングだったこともすらみんな知らない!  
Kuboty: 俺が坊主だった事も誰も知らない!  
Shun: 俺が眼鏡だった事も知らない!  
奥: 俺の携帯の電話帳にはメガネって入ってるのにな(笑)。これ結構インディーズのバンドマンが読むから、夢の話にしたいんだけどさ。  
Kuboty: 自慢の話?(笑)  
奥: そうそう(笑)。メジャーとインディーズってぶっちゃけ何が違う? こういうのって行った人になんか知らないじゃないか?  
Kuboty: (親指と人差し指をつけて)これ?(¥)(笑)  
Shun: (¥)これっていうのは俺らがもらう金じゃなくて、制作にかかる金が違うから、環境がいいんですよ!  
奥: そうなんだね。  
Jose: 俺は音源のクオリティーがあげられるってのがいい。  
Kuboty: レコーディング環境はもうディズニーランドみたいなところでレコーディングするような感じす。  
奥: まじで!  
Kuboty: まじでね。山のようになんか並んで。  
奥: 好きなように使っていそ?  
Kuboty: 結局自分の使おう(笑)。  
Shun: やっぱりエンジニアとかプロデューサーとか、人選もかつては恐れ多いすよっていうクオリティーの人達と組んで出来たりとか。  
Kuboty: 憧れのプロデューサーに、今トップチャートを振っているエンジニアに、とか。  
Shun: そういう所で、やっぱりその人が実際自分たちの曲をレコーディングの現場でエディットしたりとか、そういうのを見れるだけですごいテンションが上がる。  
Bunta: あとたぶん上手くなるんじゃないですか?  
奥: 実力がなきゃそこまで行かないじゃん? それでもやっぱり勉強することはいっぱいある?  
Kuboty: 勉強だらけ。それはもうその環境の中での価値観での上手じゃありませんか。だからすごい金がかかったような環境で、そういう日本でもトップレベルのエンジニアのとか、テックの人の仕事見ると、それだけで知識も増える勉強になるから、結果上手くなるみたいな。価値観とかも含めね。  
奥: そうだね。そこで完全に勉強してる人しかいないわけでもないね。  
Shun:むしろ大金持ちになつて人達が(笑)。  
奥: TOTALFATって昔から意識高いというか、音楽で食べてくのすごい感じてたの。  
Buntaとかさ、常にボケッたにステイク入っててさ。先輩とかに「あのフィルどうやってんすか!」とか言って、「うぜえな」とか言われてさ(笑)そういうやつだったじゃん。無理かもって思った事があった?  
Shun: しょっちゅう思っていましたね。  
奥: 本当?  
Shun: とくに「Get It Better」の頃とか(笑)  
奥: やっぱり(笑)  
Jose: 俺はそこまで大きなのはなかったな。  
奥: いくつか売れるから集んなよって感じだったんだ?  
Bunta: Joseさんはぶれないよね!

Shun: ぶれないよ!  
Jose: 正直ハードロック出して、「Hello & Goodnight」出した時に、これがハードロックより売れなかったら辞めようって思ってしまった…。  
奥: それすげー安全策だな!!! (笑)  
Jose: 次のアルバムも「Hello & Goodnight」よりも売れなかったら辞めようと思ってたし、その次も…  
Kuboty: あんまり言うとか辞めなきゃいけないよ(笑)。  
奥: Kubotyは?  
Kuboty: 俺はもうマイペースにやられて、食べる食えないってよりはいい環境で音楽できてれば幸せっていう。  
奥: なるほどね!  
Jose: ただ、辛い事もたくさんあります。体力的にも、精神的にも。でもふと思った時に、めっちゃめちゃ幸せな環境だから、テンションを上げてます。  
Kuboty: Joseはにんじ目の前にぶら下げられて走れるタイプだから(笑)。  
奥: ぶれないね。ほんと。高校生の時と変わってねえじゃん!(笑)  
Bunta: それは違う(笑)。  
奥: 高校生の時抱いた自分のヒーロー像に近づいて来てるよね。  
Jose: まだまだやりたい事いっぱいありますけど。  
奥: やっぱJoseさんぶれないすよ(笑) やっぱすこいっす!  
Bunta: いつか広告の見出しに使ってもらおうよ。「Joseはぶれない!」って(笑)。  
奥: では最後はこれを読んでいる若いバンドマン達にメッセージをもらえたらなと。  
Jose: 俺らは大ファンだったバンドとかのライブに行きまくって顔覚えてもらって、音源渡して気に入ってもらって一緒にやってたりしてんで、興味あるんだたらからかんライブに来てとんどん声をかけて来てほしいです。  
奥: まじ? 声かけて平気?  
Jose: 全然平気す。  
Kuboty: 俺もホセと同じ事言おうとしたんだけど、アピールしてほしいです。俺らが昔先輩にアピールしたように、がついてくる後輩ってあんまないんだよね。だから対バンドたり打ち上げで対バンドの友達で来たやつとか、面白ければ気に入るし、気に入らなかつたらそれまでだけ(笑)。  
奥: まあ、それはしょうがないよね。  
Shun: でもそのさ、先輩じゃなくても俺らも対バンで仲良くなったバンドと一緒に頑張ってる、今一緒にその人達とやってるし、だからなんかそうやってライブをやって飲み行つての繰り返しを大事にして、ジャンルションンって作れるもんだと思うから。  
Kuboty: 打ち上げは絶対出なきゃだめ!  
Shun: 聞くとこによると若い人達のイベントは打ち上げも無く終わることが多いって聞いたことあるけど、横のつながりを自分達から積極的に作っていかなくたっては、めいたしりしりしなかったら、バンド10年たつた時にバンド辞めたとしても続けたとしてもこうやって笑顔で話す事って出来ないとと思うから、自分がバンドをやったことをちゃんと良いものとして残していくために、仲間も思い出したくさん作って酒もたくさん飲んでき。  
奥: 本当にそう思うよ。  
Bunta: なんかもないだ。テレビで見ただけで、夢を大きく持ったほうがいっていうのは本当であつて、たとは年取とかも夢が大きい人の10倍変わっていくらしいです。若手のバンドとかも武道館でやりたとか東京ドームとか言った方が結果としてたどりで地点で変わつてくと思うですよ。  
奥: そこに行けるかは別としても、そこにとどつてまでの妥協点が違うもんね。  
Bunta: なるべくそういう夢を設定してイメージしたほうが次のライブからもしかしたら変わるかもしれないし。どんだん。その連鎖だと思ふですよ。  
Jose: あれだ? 顔面に向けて殴るんじゃないで頭の向う側に向けて振り抜くっていう?  
Bunta: そうそう。50m走をゴール5メートルにしたほうがタイム上がったっていう。  
奥: 良い話じゃないですか。  
Shun: 俺らも目標は常に大きく持ってるし、常に夢語ってこどもで来てるし、今実現出来ていってるし、俺らは変わらずそのままだよっていいので、これを見てなんか思った人がでかい事言いなから音楽聴けてもらえたらなって。  
Bunta: もっとでつかいって言ってほしいよね! 若いバンドに!  
Shun: 最後一言! 八王子のワンマンは俺らもいつもとは違った気持ちで出来ると思うから、がんばります!  
TOTALFAT: がんばります!  
奥: よろしく願います! ありがとうございました!

**[ THE HERO IS DAMNED TOUR 2011 ] ワンマンシリーズ**  
**2011/7/16 (sat) 大阪 心齋橋QUATTRO**  
**2011/7/18 (mon) 愛知 名古屋QUATTRO**  
**2011/7/28 (thu) 東京 八王子Match Vox**  
**2011/9/18 (sun) 東京 渋谷AX**

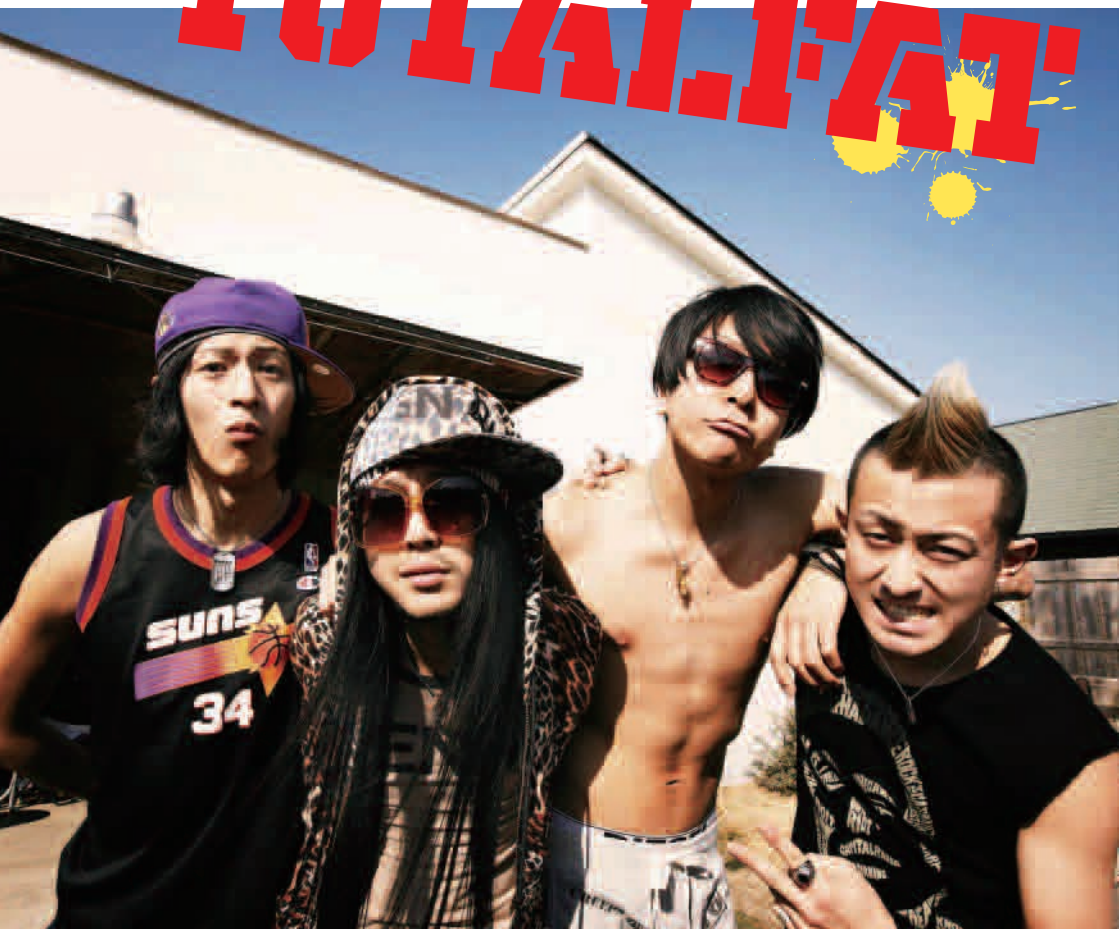
頑張ろう日本!

depon  
live mag. from real INDIES

TAKE FREE!!

2011  
07

TOTAL.FLAT



グッドモーニングアメリカ / SuiseiNoboAz / musiquo musica /  
ザリガニ\$ / アザラシ / ハロー青空トレイン / レンゲフィールド /

MEETS JAM NINESPICES ERA FLAT WARP RIPS MatchVox